



通信

HP 学校だより
R5.10.4
NO.22
文責 伊藤美佳



知っていますか？

知っていますか？9月22日（金）に4年生が総合的な学習の時間に西山に行ったとき、草がたくさん生えていたのに、28日（木）に行ったときには草が刈ってあったこと。

知っていますか？9月25日（月）に5年生が理科の学習で赤川に行ったとき、川の中の草が刈ってあったこと。

知っていますか？10月6日（金）に1年生が生活科の学習で野場農村公園に行くために下見に行ったら、すでに草が刈ってあったこと。

子どもたちの学びのために、地域の方々が環境を整えてくださっていることを多くの方に知っていただき、「当たり前」を支えてくださっていることに感謝したいです。

支えてくださっている方々がいることを知った子どもたちが、地域の皆さんに「ありがとう」はもちろん、「あいさつ」もしっかりできるようになることを期待します。

リーダーをやるということ

10月5日（木）に朝会を行い、後期学級委員と変更のあった委員会委員長の任命を行います。

「リーダーは大変だ」と思える人は、きっとリーダーを経験したことのある人でしょう。確かに周囲の人を導くということは、大変な面もたくさんあります。しかし、経験は何にも代えがたい宝だと思います。子どもたちが「失敗してもいいからやってみる」という気持ちになり、周囲の人の助けを借りながら困難な事にも立ち向かっていける、そうなってくれることを心から願います。

ところが、子どもたちから「自信がない」「やったことがないからできない」…、中には「自分なんて…」と自己否定しているのを聞くことがあります。初めてやることはできなくて当たり前、失敗して学べばいい…なんて励まして、なかなかチャレンジする勇気がわかないようです。

9月の学校保健会で講演して下さった安達先生が、「子どもたちが、小学生の年齢まで生きているだけですごいこと。でも、大人はそれを当たり前と思って、喜ぶことを忘れてる。1位とったとか、100点とったとかでしか喜べないのではなく、今まで当たり前だと勘違いしていたことを喜ぶことができたなら、子どもたちの自己肯定感が高まるはず。何より、大人が楽しくなるはず。」と教えていただきました。子どもたちが自分たちはすごい存在であることを意識するのは、大人にかかっているのではないのでしょうか。生まれてきたことが奇跡の存在であると保健の授業で伝えます。奇跡の存在に対して、それに値する言葉がけしているのでしょうか。

（当日 こうご期待！ 今年の相撲大会 見どころポイント）

- ① どの学年も 声がよく出ている！ → 迫力があって、カッコいい！
- ② どの学年も すごく楽しそうに取り組んでいる！ → これが一番大切！